

9年間の棚田保全や体験、棚田エコ学園の取り組みについて

永菅裕一・大朋あゆみ（NPO 法人棚田 LOVER' s）

はじめに

NPO 法人棚田 LOVER' s は過疎化・労働力不足・赤字の経営・鳥獣被害等により棚田が放棄され失われているという生の声を代表が聞き、学生や社会人の有志が棚田を保全するために集まったNPO 法人で、美しい棚田を未来へつなぐために、「自然やいのちに感謝」、「愛の心を育み、楽しむ」をキーワードに 2007 年から活動している。192 名の都市や農村の会員（当初 5 名）とともに、兵庫県神崎郡市川町を中心に香美町・姫路市・神戸市、大阪府にて、田植え、稲刈り、講座、試食会などの活動をしている。（下記に市川町の棚田の写真を掲載）

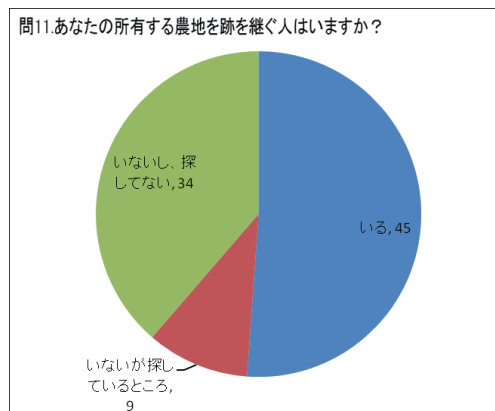
調査方法

生態系保全・持続可能な循環型社会の創出のためには、農地や景観価値・治水機能による地滑り防止作用、生態系保全、食の生産地などの価値を有する棚田を保全することが必要である。特に、棚田は平田に比べ、在来種数が多く、貴重種が存在していることも研究されている。（出口詩乃、鷺谷いづみ 2008 「畦畔植生の評価」東京大学）。

その中で、現状を知るために、当団体が 2011 年にアンケート調査「所有する農地の後を継ぐ人がいるかどうか」、を地域住民全体（153 軒）に実施した。

結果

153 軒のうち 88 軒の回答（71.4%）で、34 軒がいないし探していない、9 軒がいないが探しているという結果（下記表）が得られ、今後放棄田が増えることは明らかである。



まとめと考察

上記の結果からもわかるように、棚田の保全と活用、地域活性化、都市と農村交流の普及啓発・促進を行い、担い手を育成することが急務である。

そこで、本団体は田植え、稲刈り・種まき・料理体験、婚活、古民家・石垣再生、棚田保全の 5 か条の作成も行っている。そして、2014 年に気づき・知識を深め・主体的に実践し・次世代へと受け継ぐ教育者を養成するまでの環境教育機関である「棚田エコ学園」を開園し、担い手育成に重点を置いている。また、2016 年の共生の広場では稲わらで作ったリースも展示させていただいている。